

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-55

学校名・団体名	西尾市立中畑小学校
HPアドレス	<a href="http://www.nishio.ed.jp/nakabata-sho/index.htm">http://www.nishio.ed.jp/nakabata-sho/index.htm</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「はてな、なるほど、もっと」がいっぱい 中畑プラン
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>地域の人材や自然、施設を最大限に活用し、自然や地域のすばらしさを実感させることで、身近な自然事象にすすんで関わる子が育つと考える。また、一級河川「矢作川」での豊かな自然体験を教材化することにより、ふるさとの「人・もの・こと」に親しむ子が育つだろう。その上で、思考をめぐらせるための言語力を育成していくことにより、「はてな、なるほど、もっと」と追究を進め、深める子が育つだろう。</p>	

## 1 科学大好き「中畑絆ネットワーク」を利用した取り組み

### ① 地域とともに生活科

1年「むかしあそびをしよう」(1月)

(地域老人会「福寿会」)

2年「野菜を育てよう」(通年)

(野菜作り名人)

・学年園を利用して、地域の野菜作り名人と関わる中で野菜作りに取り組んだ。栽培活動に取り組む中で、野菜の葉や花の特徴など多くのことに子どもたちは気づいていた。収穫した野菜で野菜パーティーを開いた。自分で作った野菜のおいしさに子どもたちは感動していた。

### ② 地域とともに理科

3年「こん虫を育てよう」(5, 6月)

(虫博士)

・虫博士による様々な虫クイズ(全校児童対象)を経て、子どもたちは昆虫への興味を高めた。

その後、グループで蝶の飼育に取り組んだ。「虫博士のカブトムシとぼくたちの蝶の足の数は同じかな。」などと比較しながら、意欲的に飼育活動に取り組んだ。

5年「植物の発芽と成長」(5月)

(JA米作り名人)

## 2 地域とともに学ぶ「矢作川単元学習」(生活・総合)

3年「矢作川水族館をつくろう」(通年)

(魚つかみ名人, 碧南海浜水族館)

・魚つかみ名人とともに、矢作川水域で魚つかみ大会を行った。そこで捕まえた魚を、グループで一つの水槽を使って飼育をした。飼育活動を通して疑問に思ったことは、魚つかみ名人に質問していた。学習のまとめとして、2年生に学習成果を発表した。飼育を続ける中で、子どもたちは小学校で魚を飼いたいという願いをもった。

4年「矢作川調査隊」(通年)

(理科支援ボランティア)

## 3 屋外観察池

2にあげた3年「矢作川水族館をつくろう」の子どもたちの願いをかなえるため、屋外観察池を建設することとなった。3年生が魚を飼育している教室の外に、80cm、横10mの池を建設している。(材料購入済み、建設中)

## 4 年間を通して読む力を鍛える「読書指導」、書く力を鍛える「かくかくタイム」

(②③においては、始業前の時間を「かくかくタイム」「朝の読書」と位置付けて指導した。)

① 書くことの基礎として、読書タイムの充実を図った。図書室でおすすめの本を展示し、子どもたちが多くの本に興味をもてる環境を整えた。また、図書室に行きたくなる工夫として、子どもがよく通る渡り廊下へ展示スタンドを立てて、新しい本の紹介を行った。それにより、子どもたちは図書室へ多く出かけるようになり、読書タイムに熱心に本を読むようになった。

② 毎週水曜日は担任や図書ボランティアによる読み聞かせを行った。また、朝の読書や自分で読んだ本は、読書の記録を書かせ、その本から考えたことを文章化させた(通年)。図書室へ足を運んだり、担任や図書ボランティアの読み聞かせを聞いたりする中で、子どもたちは多くの本に触れ、読む力をつけていった。

③ 毎週金曜日のドリルタイムに、全校で百マス作文に取り組んだ。3分間で考えたことを文章化し、その後1分間で、書いた内容を五七五の十七文字にまとめた。友達の書いたことに触れられるよう、全校掲示の場を設けた(通年)。毎週取り組むことは力となり、6年生では3分間で200字近く書ける子が多くいる。

①②の読む力とともに、③で書く力を鍛えることで、子どもの言語力は高まっていった。

## 5 全体を通しての成果

虫博士や魚つかみ名人など、地域の人材を最大限に活用することで、子どもたちは身近な自然事象にすすんで関わった。その中で、「一生懸命に育てた、私のチョウはなんてきれいなんだろう。」「虫や魚、いろいろなことに詳しい人がいる中畑ってすごいな。」などと、自然事象や地域のすばらしさを実感していた。また、一級河川「矢作川」での豊かな自然体験を教材化することにより、「矢作川にいる魚はね・・・。」と語れる、ふるさとの「人・もの・こと」に親しむ子が育っている。

思考をめぐらせるための言語力を育成していくことにより、子どもたちはより豊かに自分たちの考えを表現できるようになった。3年生が魚を飼育する中で、「ぼくたちの魚はもう『中畑小』の魚だよ。だから、最後まで中畑小学校で飼っていきたい。みんなにも見てほしい。」と自分の思いを表現できた姿こそ、「はてな、なるほど、もっと」と追究を進め、深める子の姿と言ってよいのではないだろうか。